

経営比較分析表（平成30年度決算）

神奈川県大和市 市立病院

法適用区分 当然財務	業種名・事業名 病院事業	病院区分 一般病院	類似区分 400床以上～500床未満	管理者の情報 非設置
経営形態 直営	診療科数 30	DPC対象病院 対象	特殊診療機能 ※1 透未訓方	指定病院の状況 ※2 救臨が災輸
人口（人） 237,112	建物面積（㎡） 27,111	不採算地区病院 非該当	看護配置 7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

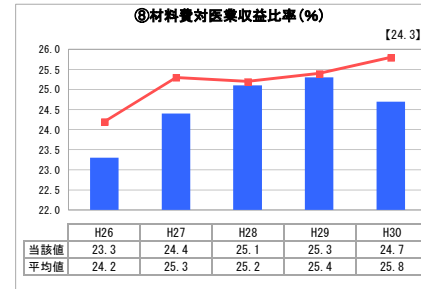
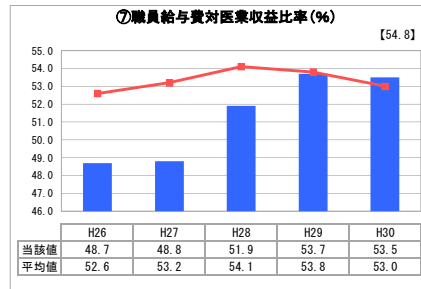
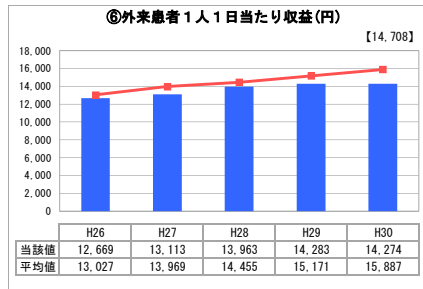
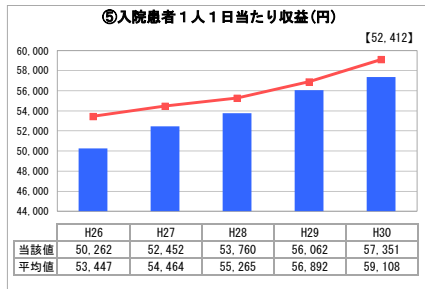
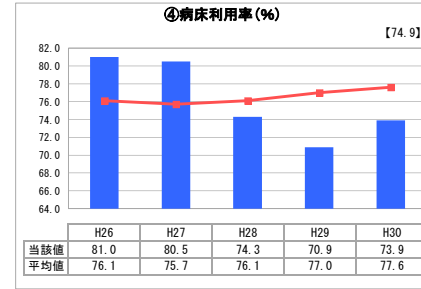
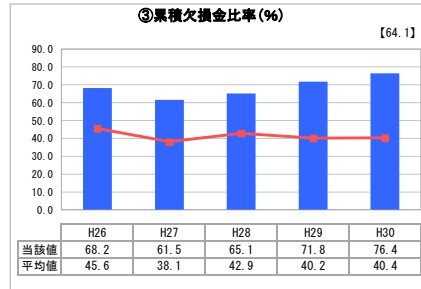
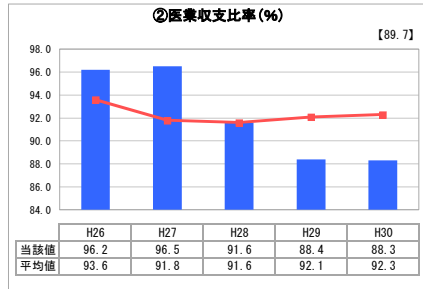
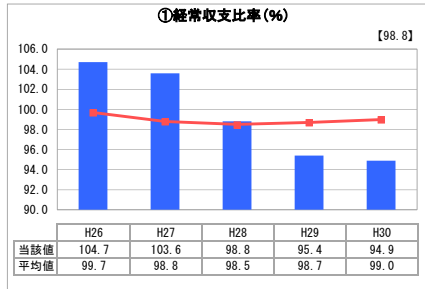
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般） 403	許可病床（療養） -	許可病床（結核） -
許可病床（精神） -	許可病床（感染症） -	許可病床（合計） 403
稼働病床（一般） 380	稼働病床（療養） -	稼働病床（一般+療養） 380

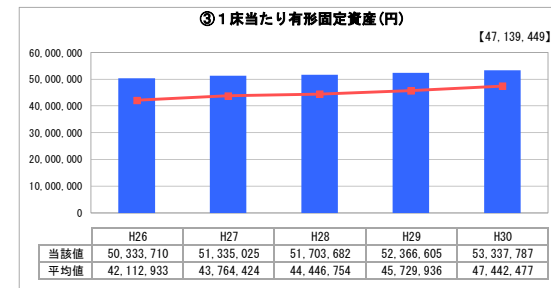
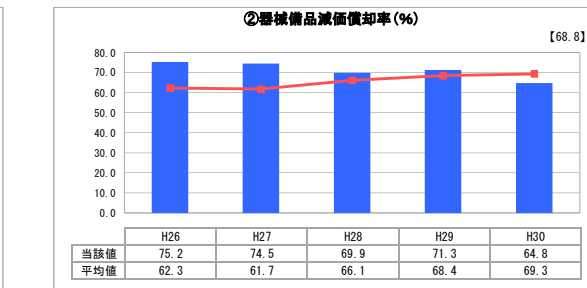
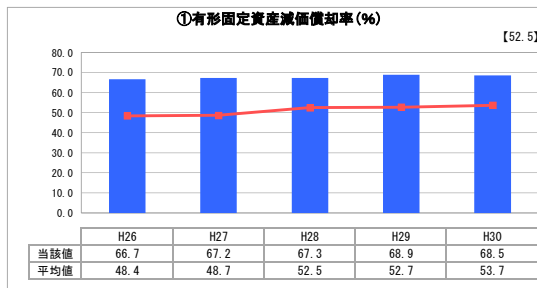
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

本院は長年にわたり、救急医療や災害医療および小児周産期医療の中核病院として、地域の医療需要に応えてきました。また、平成24年には県央二次医療圏唯一の地域がん診療連携拠点病院として国から指定を受け、県央地域のがん医療のけん引役として治療や活動に努めています。

これらのことから、本院が地域から求められる役割は、構想区域における基幹病院の一つとして、また急性期医療の拠り所としてあり続けることであり、その機能の充実と強化に努めていかなければならないと考えています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院患者1人1日当たり収益は増加し、病床利用率は上昇に転じたものの、ともに類似病院平均値を下回っており、経常収支比率も前年に引き続き平均を下回るなど、病院経営は大変厳しい状況になっています。

職員給与費対医療収益比率は前年度並みであり、費用に見合った収益をあげられていない状況と考えられるため、その原因を分析し収支改善に努めていくことが喫緊の課題と考えています。

2. 老朽化の状況について

平成30年度は、高精度の放射線機器の導入や総合医療システムの更新があり、器械備品の減価償却率は前年度実績を大きく下回りました。

一方、有形固定資産全体及び1床当たり有形固定資産は平均値を上回っている状況であるため、今後は経営状況を踏まえながら購入機器の選定や施設改修等の時期を見極めていくことが必要であると考えています。

全体総括

本院は構想区域における基幹病院の一つとして、また急性期医療の拠り所として、長年にわたり、地域の医療需要に応えてきました。

平成30年度もこれまでと同様に、地域の方々へ安心・安全な医療サービスを提供できるよう、医療機器の更新や施設・設備の改修などを行ってまいりましたが、医療収支比率は前年度並みであり、経常収支比率は前年度よりも悪化するなど、大変厳しい状況となりました。

今後も、多くの患者さんに頼られる地域の基幹病院として存在し続けていくためにも、収支改善に向けた分析を行い、病院経営が安定するように努めていきたいと考えています。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。